

一日萬機閒安之誠弥萬  
孝治要道於斯為大故能  
使地平天成風淳俗厚曰  
用所繫無思不朕道再興  
得中華漢圖方遠纔聞  
萬世

# 「書の古典観照」①

## 虞世南「孔子廟堂碑」上



図版②



宋時代に重刻された孔子廟堂碑・西安碑林博物館

今月から「古典観照」と題して、書道史上の代表的な古典作品を、丁寧に鑑賞、紹介します。初めに身近な楷書体の代表的な古典とされる初唐の三大家の第一に挙げられる虞世南の「孔子廟堂碑」を取り上げます。

虞世南（581～638、字は伯施、今の浙江省慈溪市の人。南朝の陳、隋・唐王朝につかえた書法家、文学家、詩人、政治家であり、唐王朝の賢臣の一人である）は、初唐の三大家の第一に位置する人物であり、唐の太宗に重用され、太宗との書法に関する逸話も残されている。しかし、虞世南の書法作品の確かなものは、唐の武徳九年（626）に書かれたとされる楷書の名品「孔子廟堂碑」のみである。この一件の作品で、歐陽詢や褚遂良と並び称されている。三、四世紀頃生まれた楷書体が、この初唐三大家の時代に至り、最も見事に完成され、楷書体の頂点に達したとされる。「孔子廟堂碑」は、現代においても学ばれ、高校の書道の教科書にも必ず選ばれている。しかし、現在、虞世南が書いたとされる「孔子廟堂碑」の原碑は、伝えられていない。原碑は、建てられて程なく火事等で毀れたとされる。現在我々が、多く眼にるのは、唐末以後に再建されたとされる「孔子廟堂碑」であり、その一つが、現在西安の碑林博物館に伝えられている（図②）。しかし、

我々が、手本として、學習する

「孔子廟堂碑」は、世界に一件

のみ伝えられる本来の原碑から

拓本に取られたものとされる。

この唯一の「孔子廟堂碑」拓本

が大事に珍重され、虞世南の楷書の手本として、古くから学ばれてきた。唯一の「孔子廟堂碑」拓本（図③）は、戦前に日本に持

來され、現在は三井記念美術館に所蔵されている。この拓本が、

各種の書学の出版物や教科書に

載せられ、また単行本としても

昔から数多く刊行され、多くの

方に学ばれている。しかし、こ

の唯一の「孔子廟堂碑」拓本の

成立には、実に面白い問題が秘められている。次回、その問題

点の一端を、図解で紹介しよう。

右頁の図①の原寸大図版を見て、問題点を想像してみてください。

重刻・孔子廟堂碑拓本

伊藤滋（書齋名・木鶴室）

# 書道芸術院

## 平成の群像 (2018)

和風慶雲



赤羽蘭徑刻



### 赤羽蘭徑

#### 「刻字に魅せられて」

初めて刻字作品にふれたのは宮澤梅径先生のお宅へお邪魔した時でした。「國破れ

て山河あり…」の「春望」が刻られた偏額が目に入りました。楷行草の字体と違つて篆書体は姿型が面白く、立体的造形美は迫力があり目をみはらせられました。早速会に入会しました。

先ず篆書の勉強です。先生はお手本を下さったのですが、多字数でなかなか覚えるのが大変でした。先生は多字数を刻れば字を多く覚えられるからとおっしゃいました。

刻字の魅力は書くことに加えて刻るということがあります。文字の線質を理解し文字の筆意を刀意にかえて表現していくのです。刀物の切れ味を大切に根気よく刻っていくのが美しい作品を創ることになるのです。

ノミの研ぎ方も教わりました。木材の上に塗料を塗るということは作品効果という木材の美観と風化への保護が目的であります。彩色は墨と朱墨を加えセピア系の茶色やアクリル絵具の紺、黒を多く使うようになります。金箔がきれいに張られた時の喜びはひとしおです。

私たちの会(崇徳会)は四月の桜の咲く頃に社中展を開きます。毎年テーマ「春・山・草花」等々を決め、テーマ作品と自由作品を一人3点出品します。個々が工夫を凝らし素敵な作品が並びます。来場者には人気があり毎年足を運んでいただいております。より良い作品にするため、刻りながら「にじみ」はこう表現しよう、「かすれ」を入れよう、省略しようなどと思いを巡らせますが、この自由度の高さと創造性の豊かさが刻字の醍醐味といえるのではないか。今度はどんな作品を作ろうかと夢はふくらみます。御指導のほどよろしくお願ひ致します。

3年前に公民館活動の一環として刻字講座が開かれ講師として出席しました。受講生は14人集まりました。表札を作る人と自分の好きな四字熟語を創る人に分かれました。皆さん初めての方々でしたが真剣そのもので、おしゃべりもなく夢中で刻し木槌の音のみが心地よく響いていました。6回目の最終日には全員の作品が完成しました。そこで、お菓子、果物、飲物を用意して館長さんがお菓子、果物、飲物を用意して下さり鑑賞会を行いました。全員の方が楽しかったと口を揃えて話してくれました。

秋には町の文化祭にも出品し大勢の人々に見ていただけて居ります。

# 書のひろば

理事長 辻元大雲

古文書、文房四宝が出来展され観客の目を奪ったことが特筆される。

・本院関係出品者

辻元大雲、下谷洋子、小竹石雲、小林琴水、千葉蒼玄（以上全国巡回作家）

香川倫子、白石和楓、天海矩子、神谷翠風、佐藤希雲、鈴木白鶯、石崎甘雨、

（以上本院神奈川県在住者）

## 第70回毎日書道展 事務局合同会議開催

第70回記念毎日書道展の本格的な始動となる事務局合同会議が4月12日如水会館にて開催された。合同会議に先立つ審査、総務、陳列各部の副部長会議が行われ、細部の実施要領などを検討した。

午後3時より財団理事はじめ各部役員、委員が集い合同会議が行われ石飛博光実行委員長、下谷洋子審査部長など代表役員が力強く挨拶、その後各部ごとに綿密な打ち合わせを行った。4時半頃から和やかに懇親会が開催され大いに盛り上がった。本院関係者も多数参加していただき感謝。

## 第70回毎日書道展記念巡回展 神奈川展＝今をえがく書かながわ＝

3月30日から4月8日まで、横浜そごう美術館を会場に、毎日書道会顧問・理事監事・総務・評議員など全国巡回作家作品と共に、地元神奈川県在住の毎日展会員以上および推薦作家若干名が出品して盛大に開催された。会場には特別企画の出品作家収蔵の

総務に細部指示などをお願いしている。今回4月9日院事務所にて29年度発行の一年間分を監修してご指導いただいた。長野先生からご指摘のあった部分について次回手本執筆依頼の折に該当先生にご連絡申し上げ、監修の意義を高めるべく活用させていただいているご理解の上ご協力をお願いします。

古文書、文房四宝が出来展され観客の目を奪ったことが特筆される。

・本院関係出品者

辻元大雲、下谷洋子、小竹石雲、小林琴水、千葉蒼玄（以上全国巡回作家）

香川倫子、白石和楓、天海矩子、神谷翠風、佐藤希雲、鈴木白鶯、石崎甘雨、（以上本院神奈川県在住者）

（以上本院神奈川県在住者）

年3月21日～24日和歌山展まで全国10会場で開催される。是非ご高覧を。なお、70回展地方展は別に東京展の後9会場で開催。ご支援を。

## 「書道芸術学生版」参考手本監修

本院発行の「書道芸術学生版」は創刊以来文部科学省学習指導要領に準拠を基本方針として発行されており、世の信頼度も高い競書誌として評価されている。特に参考手本については院の主要幹部ほか現場での指導経験豊富な方々にご揮毫をご依頼している。しかし学習指導要領に基づく字形や筆遣いなど細かな点はよく理解されていない方もあるため、やや細かな指示書を添付しております。それでも参考手本として難点のある表現も見受けられることもあり、毎年外部の専門知識をお持ちの方に監修をお願いしている。

前文部科学省教科調査官・東京学芸大学名誉教授の長野秀章先生に監修をお願いし、内部から武藏野大学教授広瀬裕之（舟雲）本院現代詩文書部常任

## 全日本書道連盟助け合い募金 日赤と中国大使館へ

例年行っている公益社団法人全日本書道連盟評議員以上の役員のご協力による助け合い募金、平成29年度分がまとまり、270万円が日赤本社へ、100万円が中国大使館を通じ中国での社会事業支援のために贈呈された。

4月9日連盟星弘道理事長、辻元大雲事務局長がお伺いして贈呈させていた。これまでの累積寄付額は合わせて一億円を超えている。ご協力に感謝申し上げたい。

## 全日本書道連盟夏期書道大学講座

3月29日、有楽町電気ビルにて日本文化交流協会常任委員会が開催され29年度の活動報告、今年度の予定などが話し合われた。

本協会は1956年3月創立、一昨年創立60周年を迎えた歴史ある組織で、芸術文化を通じて地道な交流を継続していく。現在政治・経済関係ではいろいろ複雑な状況を抱えているが、文化交流の面ではそれらを超越して途切れることなく努力していることをご理解いた

・3日（金）10：00開講式  
10：15～12：30行書 片岡重和  
13：45～16：00草書 柳澤朱簾

・4日（土）  
10：00～12：15楷書 谷村雋堂  
13：30～15：45漢字かな交じり書  
長野竹軒

・5日（日）  
10：00～12：15かな 下谷洋子

13：30～15：45篆書・隸書  
平形精逸  
・受講料 全課程（3日間）  
一般 15000円 会員 10000円  
一日 一般 7000円 会員 5000円  
・定員 1日100名  
・申込 全日本書道連盟事務局  
TEL 03-5294-5294  
Fax 03-5294-1371

## 日中文化交流協会常任委員会

3月29日、有楽町電気ビルにて日本文化交流協会常任委員会が開催され29

年度の活動報告、今年度の予定などが話し合われた。

本協会は左記通り決定した。例年全国からの受講者で好評。連盟役員を中心とした講師陣は充実しており、是非ご受講を。

・日時 8月3～4日  
・会場 池袋サンシャインシティ  
・会場 コンファレンスルーム



# 第71回書道芸術院展統(併催 第69回全国学生書道展)

## 特集：第71回書道芸術院展

第3部 高校生  
第4部 大学生、専門学校生  
イ部門 ①半紙の部 ②半切1/2の部、両部門に出品できる。

実行委員長	下 谷 洋 子	平成30年2月11日	1 30歳以上 700円
5 学生展表彰式 (帝国ホテル)		平成30年2月10日	2 30歳未満および70歳以上 3000円
6 一般表彰式 (帝国ホテル)		平成30年2月10日	○運営委員長 (平成30年1月1日現在)
7 祝賀懇親会 (帝国ホテル)		平成30年2月10日	○運営委員会
8 出品作品サイズ (単位cm)		平成30年2月10日	○運営委員長 辻元大雲
1 財団理事・監事	A 91×242	C 121×182	石井明子 板垣洞仙
2 会場 東京都美術館 (上野公園内)	F 85×121	D 61×176	稻垣小燕 金井如水
3 審査規定	H 121×176	I 61×182	小竹石雲 後藤大峰
ア無鑑査、一般部公募の部	G 106×136	J 73×152	小浜大明 小林琴水
・作品・書類搬入	K 91×121	L 105×152	最首翠風 嵐峨大拙
ウ審査	M 46×167	N 86×86	坂本素雪 下谷洋子
・審查会員候補	O 35×136	P 25×167	種谷萬城 田守光昭
・鑑別・審査	Q 65×86	R 30×39	千葉蒼玄 尾形澄神
イ審査会員、審査会員候補の部	S 51×61	T 30×91	浜田堂光 名越蒼竹
・書類搬入	U 35×67.5		川島舟錦 後藤大峰
・作品搬入	V 61×136		福島李舟 小竹石雲
ウ審査			山口仙草 東福青篁
・審査会員候補			麻生峰扇 福島李舟
・審査会員 (都美術館)			白石和楓 田村鄭雲
4 作品解説会 (都美術館)			
・審査会員 (一般公募作品対象)			
・役員作品・大作・上位入賞作品対象			
9 一般公募出品料			
○第71回書道芸術院展			
1 出品規定			
ア出品資格			
第1部 幼稚園、小学生			
第2部 中学生			
* 審査会員の作品について			
○第69回全国学生書道展			
1 出品規定			
ア出品資格			
第1部 幼稚園、小学生			
第2部 中学生			
* 審査会員の作品について			
○第71回書道芸術院展			
1 出品規定			
ア出品資格			
第1部 幼稚園、小学生			
第2部 中学生			
* 審査会員の作品について			
○第69回全国学生書道展			
1 出品規定			
ア出品資格			
第1部 幼稚園、小学生			
第2部 中学生			
* 審査会員の作品について			
○第71回書道芸術院展			
1 出品規定			
ア出品資格			
第1部 幼稚園、小学生			
第2部 中学生			
* 審査会員の作品について			
○第69回全国学生書道展			
1 出品規定			
ア出品資格			
第1部 幼稚園、小学生			
第2部 中学生			
* 審査会員の作品について			
○第71回書道芸術院展			
1 出品規定			
ア出品資格			
第1部 幼稚園、小学生			
第2部 中学生			
* 審査会員の作品について			
○第69回全国学生書道展			
1 出品規定			
ア出品資格			
第1部 幼稚園、小学生			
第2部 中学生			
* 審査会員の作品について			
○第71回書道芸術院展			
1 出品規定			
ア出品資格			
第1部 幼稚園、小学生			
第2部 中学生			
* 審査会員の作品について			
○第69回全国学生書道展			
1 出品規定			
ア出品資格			
第1部 幼稚園、小学生			
第2部 中学生			
* 審査会員の作品について			
○第71回書道芸術院展			
1 出品規定			
ア出品資格			
第1部 幼稚園、小学生			
第2部 中学生			
* 審査会員の作品について			
○第69回全国学生書道展			
1 出品規定			
ア出品資格			
第1部 幼稚園、小学生			
第2部 中学生			
* 審査会員の作品について			
○第71回書道芸術院展			
1 出品規定			
ア出品資格			
第1部 幼稚園、小学生			
第2部 中学生			
* 審査会員の作品について			
○第69回全国学生書道展			
1 出品規定			
ア出品資格			
第1部 幼稚園、小学生			
第2部 中学生			
* 審査会員の作品について			
○第71回書道芸術院展			
1 出品規定			
ア出品資格			
第1部 幼稚園、小学生			
第2部 中学生			
* 審査会員の作品について			
○第69回全国学生書道展			
1 出品規定			
ア出品資格			
第1部 幼稚園、小学生			
第2部 中学生			
* 審査会員の作品について			
○第71回書道芸術院展			
1 出品規定			
ア出品資格			
第1部 幼稚園、小学生			
第2部 中学生			
* 審査会員の作品について			
○第69回全国学生書道展			
1 出品規定			
ア出品資格			
第1部 幼稚園、小学生			
第2部 中学生			
* 審査会員の作品について			
○第71回書道芸術院展			
1 出品規定			
ア出品資格			
第1部 幼稚園、小学生			
第2部 中学生			
* 審査会員の作品について			
○第69回全国学生書道展			
1 出品規定			
ア出品資格			
第1部 幼稚園、小学生			
第2部 中学生			
* 審査会員の作品について			
○第71回書道芸術院展			
1 出品規定			
ア出品資格			
第1部 幼稚園、小学生			
第2部 中学生			
* 審査会員の作品について			
○第69回全国学生書道展			
1 出品規定			
ア出品資格			
第1部 幼稚園、小学生			
第2部 中学生			
* 審査会員の作品について			
○第71回書道芸術院展			
1 出品規定			
ア出品資格			
第1部 幼稚園、小学生			
第2部 中学生			
* 審査会員の作品について			
○第69回全国学生書道展			
1 出品規定			
ア出品資格			
第1部 幼稚園、小学生			
第2部 中学生			
* 審査会員の作品について			
○第71回書道芸術院展			
1 出品規定			
ア出品資格			
第1部 幼稚園、小学生			
第2部 中学生			
* 審査会員の作品について			
○第69回全国学生書道展			
1 出品規定			
ア出品資格			
第1部 幼稚園、小学生			
第2部 中学生			
* 審査会員の作品について			
○第71回書道芸術院展			
1 出品規定			
ア出品資格			
第1部 幼稚園、小学生			
第2部 中学生			
* 審査会員の作品について			
○第69回全国学生書道展			
1 出品規定			
ア出品資格			
第1部 幼稚園、小学生			
第2部 中学生			
* 審査会員の作品について			
○第71回書道芸術院展			
1 出品規定			
ア出品資格			
第1部 幼稚園、小学生			
第2部 中学生			
* 審査会員の作品について			
○第69回全国学生書道展			
1 出品規定			
ア出品資格			
第1部 幼稚園、小学生			
第2部 中学生			
* 審査会員の作品について			
○第71回書道芸術院展			
1 出品規定			
ア出品資格			
第1部 幼稚園、小学生			
第2部 中学生			
* 審査会員の作品について			
○第69回全国学生書道展			
1 出品規定			
ア出品資格			
第1部 幼稚園、小学生			
第2部 中学生			
* 審査会員の作品について			
○第71回書道芸術院展			
1 出品規定			
ア出品資格			
第1部 幼稚園、小学生			
第2部 中学生			
* 審査会員の作品について			
○第69回全国学生書道展			
1 出品規定			
ア出品資格			
第1部 幼稚園、小学生			
第2部 中学生			
* 審査会員の作品について			
○第71回書道芸術院展			
1 出品規定			
ア出品資格			
第1部 幼稚園、小学生			
第2部 中学生			
* 審査会員の作品について			
○第69回全国学生書道展			
1 出品規定			
ア出品資格			
第1部 幼稚園、小学生			
第2部 中学生			
* 審査会員の作品について			
○第71回書道芸術院展			
1 出品規定			
ア出品資格			
第1部 幼稚園、小学生			
第2部 中学生			
* 審査会員の作品について			
○第69回全国学生書道展			
1 出品規定			
ア出品資格			
第1部 幼稚園、小学生			
第2部 中学生			
* 審査会員の作品について			
○第71回書道芸術院展			
1 出品規定			
ア出品資格			
第1部 幼稚園、小学生			
第2部 中学生			
* 審査会員の作品について			
○第69回全国学生書道展			
1 出品規定			
ア出品資格			
第1部 幼稚園、小学生			
第2部 中学生			
* 審査会員の作品について			
○第71回書道芸術院展			
1 出品規定			
ア出品資格			
第1部 幼稚園、小学生			
第2部 中学生			
* 審査会員の作品について			
○第69回全国学生書道展			
1 出品規定			
ア出品資格			
第1部 幼稚園、小学生			
第2部 中学生			
* 審査会員の作品について			
○第71回書道芸術院展			
1 出品規定			
ア出品資格			
第1部 幼稚園、小学生			
第2部 中学生			
* 審査会員の作品について			
○第69回全国学生書道展			
1 出品規定			
ア出品資格			
第1部 幼稚園、小学生			
第2部 中学生			
* 審査会員の作品について			
○第71回書道芸術院展			
1 出品規定			
ア出品資格			
第1部 幼稚園、小学生			
第2部 中学生			
* 審査会員の作品について			
○第69回全国学生書道展			
1 出品規定			
ア出品資格			
第1部 幼稚園、小学生			
第2部 中学生			
* 審査会員の作品について			
○第71回書道芸術院展			
1 出品規定			
ア出品資格			
第1部 幼稚園、小学生			
第2部 中学生			
* 審査会員の作品について			
○第69回全国学生書道展			
1 出品規定			
ア出品資格			
第1部 幼稚園、小学生			
第2部 中学生			
* 審査会員の作品について			
○第71回書道芸術院展			
1 出品規定			
ア出品資格			
第1部 幼稚園、小学生			
第2部 中学生			
* 審査会員の作品について			
○第69回全国学生書道展			
1 出品規定			
ア出品資格			
第1部 幼稚園、小学生			
第2部 中学生			
* 審査会員の作品について			
○第71回書道芸術院展			
1 出品規定			
ア出品資格			
第1部 幼稚園、小学生			
第2部 中学生			
* 審査会員の作品について			
○第69回全国学生書道展			
1 出品規定			
ア出品資格			
第1部 幼稚園、小学生			
第2部 中学生			
* 審査会員の作品について			
○第71回書道芸術院展			
1 出品規定			
ア出品資格			
第1部 幼稚園、小学生			
第2部 中学生			
* 審査会員の作品について			
○第69回全国学生書道展			
1 出品規定			
ア出品資格			
第1部 幼稚園、小学生			
第2部 中学生			
* 審査会員の作品について			
○第71回書道芸術院展			
1 出品規定			
ア出品資格			
第1部 幼稚園、小学生			
第2部 中学生			
* 審査会員の作品について			
○第69回全国学生書道展			
1 出品規定			
ア出品資格			
第1部 幼稚園、小学生			
第2部 中学生			
* 審査会員の作品について			
○第71回書道芸術院展			
1 出品規定			
ア出品資格			
第1部 幼稚園、小学生			
第2部 中学生			
* 審査会員の作品について			
○第69回全国学生書道展			
1 出品規定			
ア出品資格			
第1部 幼稚園、小学生			
第2部 中学生			
* 審査会員の作品について			
○第71回書道芸術院展			
1 出品規定			
ア出品資格			
第1部 幼稚園、小学生			
第2部 中学生			
* 審査会員の作品について			
○第69回全国学生書道展			
1 出品規定			
ア出品資格			
第1部 幼稚園、小学生			
第2部 中学生			
* 審査会員の作品について			
○第71回書道芸術院展			
1 出品規定			
ア出品資格			
第1部 幼稚園、小学生			
第2部 中学生			
* 審査会員の作品について			
○第69回全国学生書道展			
1 出品規定			
ア出品資格			
第1部 幼稚園、小学生			
第2部 中学生			
* 審査会員の作品について			
○第71回書道芸術院展			
1 出品規定			
ア出品資格			
第1部 幼稚園、小学生			
第2部 中学生			
* 審査会員の作品について			
○第69回全国学生書道展			
1 出品規定			
ア出品資格			
第1部 幼稚園、小学生			
第2部 中学生			



## 特集：第71回書道芸術院展

の寸評は作品脇に掲示し、さらに印刷して参観者にも配布した。

島谷弘幸の眼＝岡村恵窓、小竹明峰、

齊藤理舟、千田春月、半田藤扇の各氏。

伊藤滋の眼＝島田白露、鈴木承琳、

大和小舟、吉永杏花、渡辺柱雲の各氏。

○作品解説会

2月6日午後2時からと、9日午後3時から無鑑査・公募作品を対象に各展示会場に於いて、当番審査正副主任が担当して解説会を行った。

また2月11日正午から展示会場第1室に於いて役員作品・大作・上位入賞作品を対象に解説会を行った。

担当は漢字・種谷萬城、かな・下谷洋子、現詩・小竹石雲、篆刻・刻字・後藤大峰、前衛・金井如水の各部の代表選考委員があたった。総評は辻元大雲運営委員長が行う。たくさんの方々が参加して下さり、賑わう解説会となつた。

### ○全国学生書道展表彰式

平成30年2月10日午後1時より、帝國ホテル富士の間に於いて、毎日新聞社事業本部総務・企画部長・三岡昭博様をお迎えして表彰式を挙行した。

表彰状の授与は、辻元大雲運営委員長はじめ財団理事、監事が務めた。毎日小学生新聞賞、毎日新聞社賞については三岡昭博様にお願いした。

帝国ホテルでの四回目の表彰式。片岡豪峰事務局次長の手配もよく、良い表彰式を挙行。勝山初美総務部長、佐久間幸扇表彰部長、大平邑峰揮毫部長の各氏に感謝。

### ○書道芸術院展表彰式

学生展表彰式に続いて同会場にて、書道芸術院展の表彰式が挙行された。

ご来賓は毎日書道会専務理事・西村修一様、顧問・香川倫子様をお迎えした。

春華賞、大賞、準大賞は、辻元大雲運営委員長より授与。以下の各賞につ

いては、財団の理事、監事によって授与。西村修一様には毎日新聞社賞の授与とともに激励のご祝辞をいただいた。

最後に受賞者を代表して、書道芸術院大賞に輝いたかな部・濱田竹雪さんからの謝辞があつた

○祝賀懇親会

院展表彰式終了後、6時から祝賀懇親会の開宴となる。開会のことばは小竹石雲常務理事。続いて辻元大雲理事長により主催者の社取締役・広田勝己様、中国大使館公使参事官・陳諄様（公社）全日本書道連盟理事長・星弘道様、書道評論家・麻生泰久様よりいただいた。乾杯は毎日書道会専務理事・西村修一様のご発声で開宴となる。

春華賞受賞者・千田春月さんはじめ、たくさんの受賞者の喜びの声や紹介が続き、ご来賓の方々との交流も賑やかな宴たけなわとなる。

最後に、後藤大峰常務理事の閉会のことばで惜しまれつつ終了した。

### ○表彰式・祝賀会部

麻生峰扇部長を中心福島李舟総務豪峰事務局次長のご苦労に対し、深く感謝申します。

あげての手際の良さで盛況のうちに無事終了した。

### ○総務部

学生展、院展とも総務部は、書類搬入から作品搬入、整理、審査準備、表彰式、祝賀懇親会、撤回、搬出など、

入から作品搬入、整理、審査準備、表

彰式、祝賀懇親会、撤回、搬出など、

長期に亘りご苦労願った。

### ○審査部

学生展は小浜大明審査部長、一般は金井如水審査部長のもと、事務局、総務部との連携もよく、審査、事務処理とともに順調に進めていた。竹本龍汀副部長はじめ委員の方々に感謝。

### ○会計部

会計部は学生展と第71回展の全てに亘り、膨大な予算を緻密な計算によつて滞りなく処理していただき、事業終了後の残務も含め、白石和楓会計部長に心から感謝。

### ○運営事務局

院展、学生展、運営の全てに関わり、膨大な事務局作業をコンピューターを駆使。事務処理担当の㈱リンクスとの連携を密にして進めていただいた。

各部の当番審査員並びに事務委員の人数割出しに始まり、出品個票の出力、搬入統計の集計、賞の配分、審査結果の通知、陳列計画、出品者目録の作成、作品配置、祝賀会座席配置等々、総務審査、陳列、祝賀会、会計とあらゆる部署と連携し事務処理に関わっていた



作品解説会



一般無鑑査審査員総会

〈解説〉多胡碑は笠石・碑身・台石から構成される。碑身は高さ129cm・幅69cm・厚さ62cmの方形の石柱である。石材は碑の所在地である高崎市吉井町の西南隣、甘樂町天引から切り出された牛伏砂岩（別名・天引白）である。これに6行80字の碑文が丸底彫りされている。書風は「鄭羲下碑」をはじめとする鄭道昭（？～516）の摩崖刻石の筆致に似た堂々たる八朝風である。一文字6cm程の大字で、点画は大らかで丸みがあり（円筆）、同じ太さで肥瘦の変化はない。運筆にも緩急抑揚の変化はない。しかし、古朴で豪放、氣宇雄大、悠々たる配字など、わが国碑中の傑作であり、六朝諸碑に比べても遜色がない。この地方には朝鮮半島からの帰化人が多く聚落をなしていた。筆者は不明であるが、その書体・書風から見て帰化人の手になるものであろうという説が多い。

（編集部）

### — 多胡碑 —



（掲載図版は25%に縮小）

※落款を必ず入れる。署名、もしくは○○臨（押印のみ也可）

**漢字研究部臨書課題** = (半紙普通判・縦使用) 上記の図版より何文字臨書してもよい。

**特別研究部臨書課題** = (毎日展公募サイズ以内・縦横自由) 当該古典の上記掲載部分以外も可。

## ② (伝小野道風筆事)

170

緋色紙

(落印のみ可)  
※落款を必ず入れる。  
墨名、もじはへは〇〇〇〇年  
おのとおのとおのとおのと

※掲載図版は90%に縮小。

(出光美術館蔵)

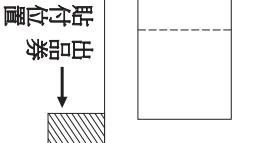
感されていて。

(翻訳部)

いいたが、その後分割され、諸家に分  
まず、石川県大聖寺の前田家に十六  
年(明治39年)に書風と料紙などから、この「緋色紙」  
は10世紀後半から11世紀はじめの書  
れるが確証はない。その洗練された  
筆者は小野道風(朝へ風)と伝わ  
れています。枯淡の趣があり、格調高  
い。緩急抑揚の変化に富み、よく洗練さ  
れた空間美を生み出しています。運筆は  
と点画、行の間隔や傾きの変化が優  
美な空間美を生み出しています。余白  
一首が散らし書きされています。余白  
詞書と作者を略し、料紙一枚に和歌  
に移行する過渡期の遺品である。

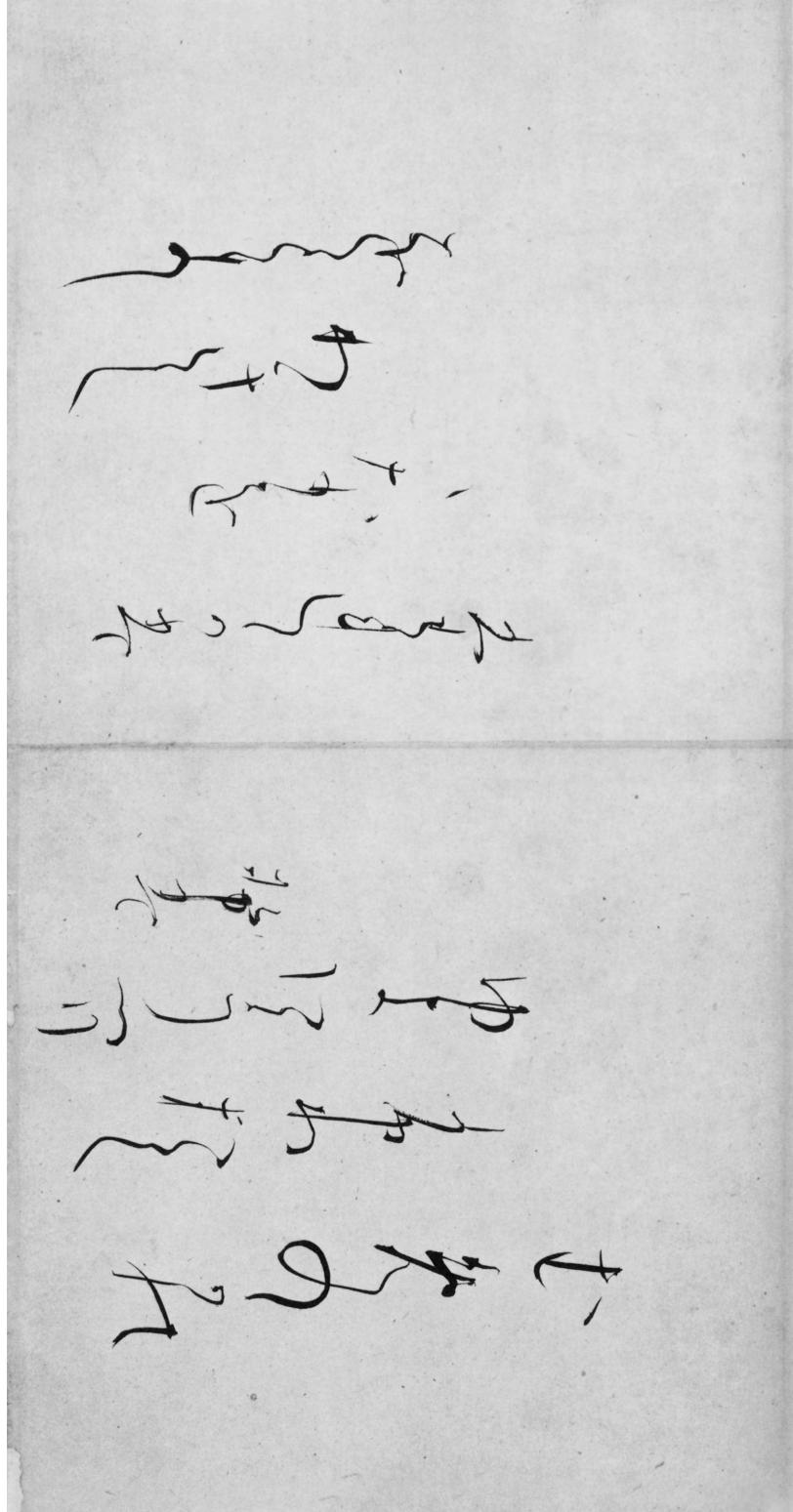
&lt;解説&gt; 「緋色紙」は草がながら平か

せらましま  
せば  
ゆきにつり  
ふりおぐく  
むめのかの  
たれかは  
よみ



自由)上記の掲載以外も可。  
(毎日展公募サイズ以内・縦横  
特別研究部臨書課題

使用)上記の叶筆の掲載部分の歌一首。  
(半紙墨通判(落款可)・横長に  
かね研究部臨書課題



習い方解説 (二)

小竹石雲

青樓自管絃 (李商隱「風雨」)  
(青樓自から管絃)

潤い、清らかな行書を米芾に求

めてみた。

・自然な流れで、平正で伸びのあ  
るなかに変化を求めてみた。

・そのためには、一字のなかに強  
弱、軽重、緩急の虚実をつける  
ようにした。

・曲・直を交えて、あくまで強い  
線を根底にした。



青樓自管絃 よみ(青樓自から管絳)

書体=自由

尾形澄神

(禅語)

一物也無  
(一物も也無し)

みんな等しく、あるのは「」のみ  
存在のみ。

楷法の極則とまで評される歐陽詢の九成宮醴泉銘の書法を軸にし、自己の創意を盛り込んだ。九成宮醴泉銘の縱長で背勢、端正かつ理解的で美しい結構、鋭く冴えた三過折(起筆・送筆・收筆)は謹厳な印象を与えます。

「一」起筆の厳しさ、一旦鋒先を絞り再び徐々に開鋒してゆく送筆、そして收筆の厳格さ。「物」一・二画目は一筆で書く。三画目縦画は背高く。はねは、勢いよくはねず、鋒先をまとめつつ静かに離筆する。「也」最終画をのびやかに、收筆は鋒先を閉じながら静かに離筆。「無」れつか(四つの点)の方向、角度に注意。  
押印するときは一度、反故紙等に試し押してから再び印泥を付けて押すときれいにうつります。

一物也無 よみ(一物も也無し)

書体=楷書



習い方解説 (二)

下谷洋子

吉野山花の散りにし木の下に  
とめし心はわれを待つらん  
(山家集)

（山家集）

三月号まで、古筆鑑賞は針切でした。針切は、もう何百回も見て臨書しているはずなのに、改めて何と行が美しいのかと思いました。

特に二行の組合せが非常に美しい。二行目が影のように寄り添ったり、しかもその寄り添い方が均一な行間で進むのでなく、重なるほど近くなつたり離れたりする。かなを

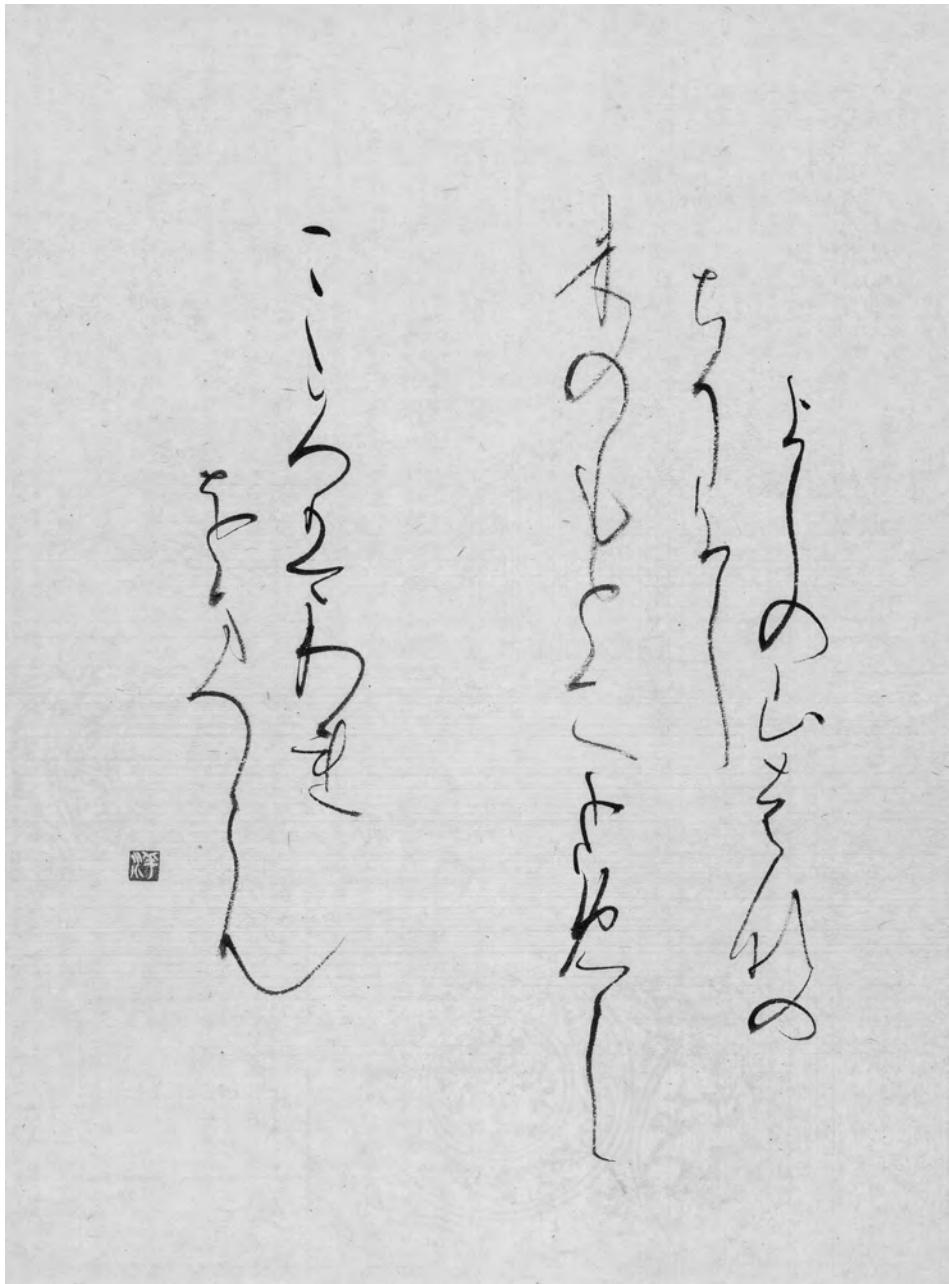
散らし書きにする時、行間に広狭をつけますが、その二行は、前の行の様子によつて表情なり文字の形が作られていくます。特に針切は右隣りの行に添えた行が絶妙な働きをしています。行同士に緩急があるのです。行の組立を考えるには感覚だけではなく、その辺の基本の勉強が必要でしよう。

再度針切を取り出し、その美しさを確かめて生かして下さい。

よみ方 吉野(よしの)山花(者那)の散(ち)りに(尔)し木の下(毛と)に(一)  
とめ(免)し心(こゝろ)は(盤)われ(連)を待(万)つらん(无)

山家集

創作



かな規定 秀級以下【六月十五日締めきり】用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$  (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

掲載写真的和歌を臨書する。または部分(2字以上の連綿)を臨書する。

粘葉本和漢朗詠集  
(掲載写真拡大111%)



よみ方 わが(可)せこに(尔)みせ(世)むとおも(元)ひしむめのは(者)な(奈)

それとも(无)み(美)えず(須)ゆき(支)のふれば(盤)赤人

かな条幅規定【六月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

善養寺紅風選書

### 習い方解説 (二)

善養寺 紅 風

草しげる道かりあけて山ざと  
花みし人の心をぞみる

(西行)

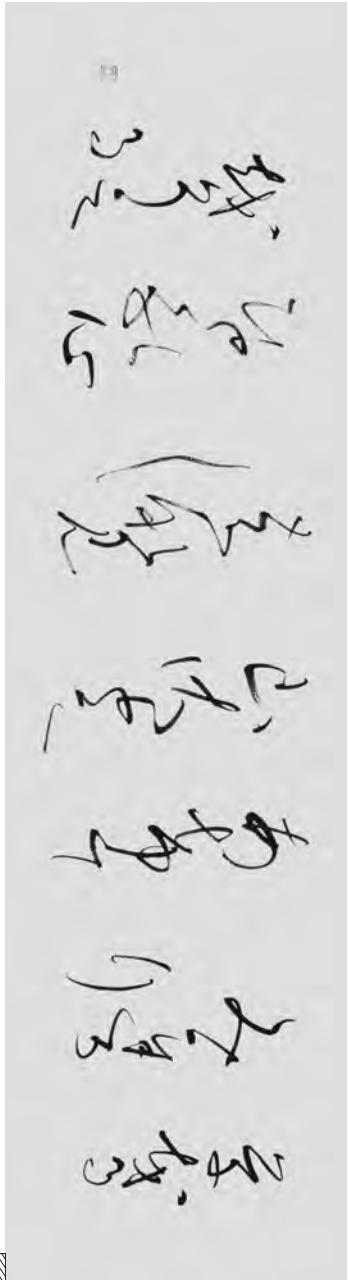
横作品は、縦への行の流れに注意しながら横への展開を考えます。文字が垂直に立つのではなく、左右に動きながら中心移動することで、美しい流れと余白が生まれます。中央を高まりとして大きくしました。含墨の位置を変えるなどして工夫して書いて下さい。

\* □□形式に限る

創作

出品券  
貼付位置

よみ方 草しげ(茂)る道(み運)か(可)りあけ(希)て山ざ(佐)とに(一)  
花(者那)み(見)し人(ひと)の(能)心を越(ぞ)と(曾)み(い)る



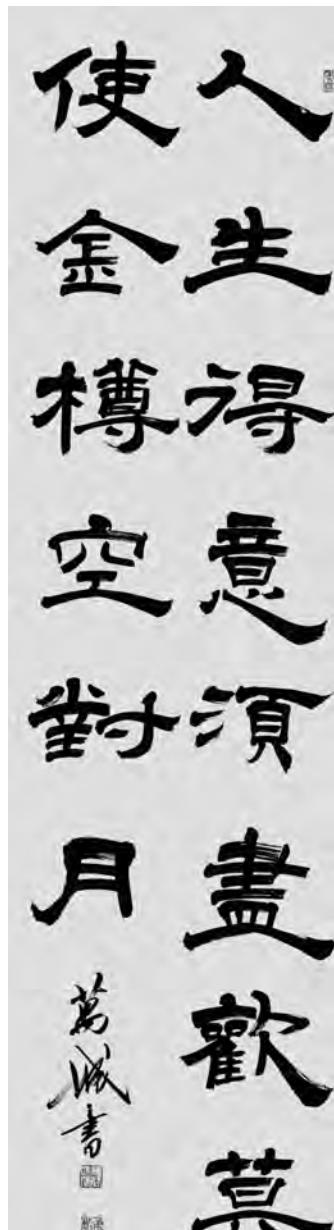
漢字条幅規定 初段以上【六月十五日締めきり】

用紙 小画仙紙半切

種谷 萬城選書

## 習い方解説 (二)

種谷 萬城



人生得意須盡歡  
莫使金樽空對月  
(人生得意須尽欢  
莫使金樽空对月) (唐・李白)

人生得意須尽欢  
く歡を尽すべし  
金樽をして空しく月に對せ使むる莫れ

書体=自由



書体=自由

漢字条幅規定 秀級以下【六月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

川島舟錦選書

## 習い方解説 (二)

川島舟錦

少々崩しすぎてしまったかと思  
います。書体や書風について、参  
考作品にとらわれることなく、ま  
た、迷うことなく自信を持つて、  
自由気ままに筆を走らせてしま  
う。窓を開けて、心地よい風を感じ  
ながら、リズムや気脈を少し意識し  
て…。

李白詩を隸書で書きました。隸  
書は篆書の点画を直線化・簡略化  
し、漢代に正式書体として定着し  
ます。起筆は藏峰で、收筆に波勢  
があり、特に波磔に装飾的な筆法  
が見られます。横広の字形、水平・  
等間隔の横画、転折部では筆を一  
度引き抜き、改めて藏峰で入筆し  
ます。漢簡・漢碑の名品を臨書し、  
様々な隸書も学びましょう。

\*タテ形式に限る

習い方解説(二)

大隅晃弘

絵も書道も自分らしさを表現したいから、見えないものを見える形にするだけです。

正解がないものをいつもいつも追いかめるだけ。

曰比野克彦「グレーゾンの提示」より 晃弘書

ペン字作品に用いる筆記具は、ペン先の材質や形状、インクの種類等、その組み合はせは無限で多種多様の商品が出回っています。その特徴を捉えながら、求める表現によって使い分けると良いでしょう。

前回に続き、一般的なボールペンを使用しました。太さやインクの出方、ペン先のボールの滑らかさなど様々で、各自の好みが分かれるところです。また、ペン先の接する角度、筆圧のかけ方や運筆速度の具合によって、書き心地が大きく変わります。毛筆に比べ、筆力を吸収する弾力性がなく、紙との接触面積が小さいため、そのペン先に相当の強い圧力が働くのもボールペンの特徴です。筆圧の強い人が、長時間ボールペンを使用すると、指先や手首などに負担を感じるのはそのためです。

ボールペンを用いる際には、適度なクッション性を持つ下敷きを使うなどして、好みの書き心地を調整するとよいでしょう。

※落款(自分の名前)を必ず入れる。

用紙=はがきの大きさ(14×10cm)、白色のもの、黒インク使用のこと

書体=自由

今月の

# ホープ作品 各部総評

No. 683

ペン字部 師範 遠藤のりえ  
ペン先の開閉を巧みに使い毛筆  
調の流れ漂う。連綿も実に自然で  
爽やかな印象。大変格調高い作品  
◎ペン字部総評 安定した作多數。  
漢字かな同じ大きさで纏めず文字  
の大小長短のメリハリに考慮を。

(雪枝評)

かな条幅部 準師 渋谷由美子  
参考手本をよく学び、気負いなく自分らしい表現とした個性は見事です。優しい墨色が特に魅力的。◎かな条幅部総評 色の行書、草書に不明瞭な作多く残念。字典を座右に、又、墨色が悪く紙面の冴えの欠落散見。要研究。(明子評)

漢字条幅部 師範 押元 順子  
上のやうで下へへへへへへへへ  
いて、一時の感激や興奮と避け  
樂一れるものは樂一のみ苦一ま  
なければならぬものは苦へん  
て生きて行きませう。

政治の書簡より のりえ書



漢字条幅部 師範 押元 順子

◎漢字条幅部総評 温和な線性の八分體。清・揚帆を連想させ、細太の妙味がある。隸法着実で安定した作品です。



漢字条幅部 師範 押元 順子  
◎漢字条幅部総評 上級は横形式で配字の巧拙が見られた。上級、下級共、落款の不調和が目立つ。本文と書風の一貫を。

(萬城評)

現代詩文書部 特選 薄田 春綠  
余白が美しい。一行目と二行目に「の」が隣接するも違和感なく落款の布置も見事である。

◎現代詩文書部総評 作品全般のレベルが高くなっている。言葉の薰が漂えばもっと佳い。(素雪評)

前衛書部 特選 千葉 光泉  
淡墨による、豊かな線質の変化に余裕あり、紙面全体に緊張感を作り出した会心の作だ。

◎前衛書部総評 個性豊かで、感動作が多かった。大胆な紙面構成にさらなる研究が必要。(仙岳評)

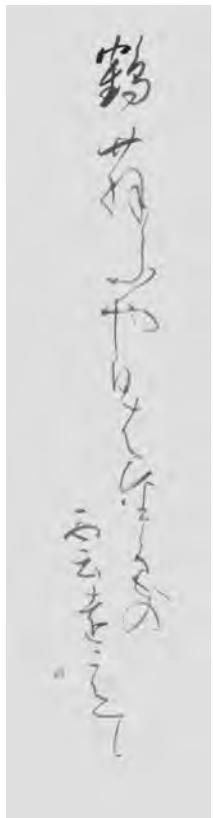


漢字部 師範 尾形 紅霞  
ダイナミックな運筆で勢いある表現。潤渴の変化も自然で紙面に広がりを与えて妙。落款一考。

◎漢字部総評 上級5文字表現はやや萎縮した作多し。参考手本によるものに顕著。下級を含め基礎的な表現力の向上を。(大雲評)



かな部 師範 宇田川春華  
ホープにすべきか迷ったが、料紙の因柄を生かして成功した例として挙げた。穂先の利いた線白眉。◎かな部総評 変体がな非を誤解して理解した方が多く残念。オリジナルは好みだが、印の位置まで十分な配慮がほしい。(洋子評)



今月の

# 特別研究部優秀作品(特選)

前衛書 (蓮紅社)

大友紅蓉



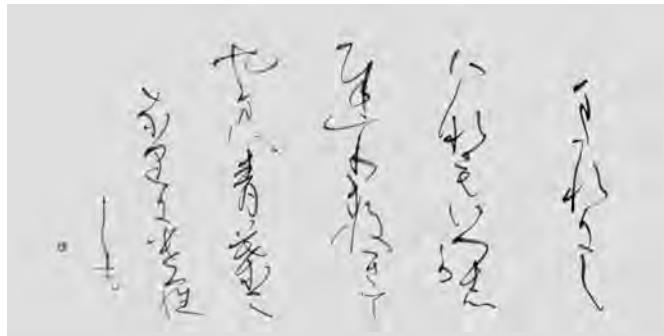
大友紅蓉書

180×60cm

「生命」

「待たれにし」

かな (如月) 治田芳江



70×136cm

◆行間と字間の余白が全体を明るくした作品。線条にリズムを加えながら変化させていく運筆は見事。

(峰子評)

◆短歌一首をやや上部を広くした6行構成は、爽快さを伴って妙。運腕の大きな動きも技術の高さから。

(大雲評)

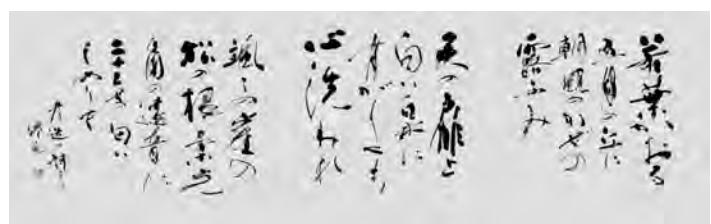
◆ゆったりとした清々しい作。無理のない構成で運腕を大胆に楽しんで書いている。多彩な線質で調和。

(鄭街評)

治田芳江書

「五月空(抄)  
犀川のほとりにて」

現代詩文書 (大雲) 長島僊雨



55×174cm

◆爽やかで明るい作。三つの集団構成も無理なく自然な流れを感じさせる。中央部やや軽すぎたか。

(大雲評)

◆三つのブロック構成で練度の高い複雑な線で最後まで書き進んでいる。力み過ぎがなかったのが成功か。

(鄭街評)

◆中央の天と心の墨量とひらがなの組み合わせが魅力的。筆は羊毛であろうか、線条が伸びやかである。紙面構成も自然で安定した作。

(峰子評)

長島僊雨書

◆上部から下部へ3部構成。超長鋒から生まれる渴筆の広がりある線条と構成が見事。下部さらに深みのある線ほしい。

(紅瑠評)

◆切れ味鋭く筆の開閉が自在で見える作品に仕上がる。凍とした表情が明るく親しみを感じる。

(鄭街評)

◆超長鋒による筆の開閉をダイナミックに表現し、スケールの大きな作。渴筆部やや上すべりの感あり。(大雲評)

◆中央部の引き込まれるような表現が魅力的。下部は薄いペールの裏が見えるようで楽しい。

(峰子評)

前衛書

(角田)

坂田翠江



「大河」

坂田翠江書

180×60cm

◆中央部のうねりが心に止まる。「起承転結」という言葉を連想させ、最後のまわりが作品を引き締めた。

(鄭街評)

◆エネルギーッシュな筆致が大きく躍動してスケールの大きな作品となつた。書き出し部分もさらに線の強さがほしい。

(紅瑠評)

◆台風の後の濁流が大きなうねりになって迫つて来るようだ。多彩な表現を可能にした筆力に感服。

(峰子評)

現代詩文書

(八戸) 市川紫泉



市川紫泉書

60×180cm

◆やや粗さが目立つが、中央部の渴筆の広がりがポイントなっている。もう少し紙面にくい込む線を。

(大雲評)

◆導入部分の素朴な表現から中央部の大膽な渴筆に移り、最後は逆三角形に上手くまとめた。

(鄭街評)

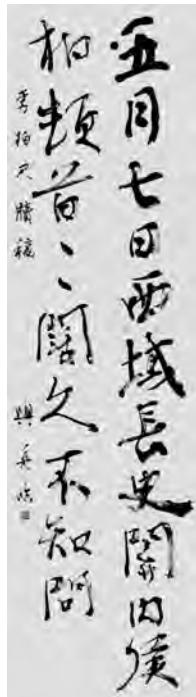
◆詩の内容を作品に表現したいという気持ちが強く感じられる。中央の一瞬の飛沫が直線構成に効果的。  
◆横作品としての中央部の盛り上げと後半のまとめが効果的で、落款も見事に調和している。

(峰子評)

「中原中也の詩」

臨書

(大雲) 江本興舟 「李柏尺牘稿」



江本興舟臨

180×48cm

創作の部(43点)

漢字 - 2点

かな - 5点

現代 - 19点

篆刻 - 0点

前衛 - 17点

書の部(24点)

漢字 - 21点

かな - 3点

かさを出している。原帖の素朴

チをよく観察し、骨力ある表現

を展開。素朴な雰囲気も感じる

やかな作。

(鄭街評)

◆原帖のやや粗さの目立つタッ

クをよく捉え、鍛錬され

た線条は、書学の深さを感じさ

せりがある二通目。原帖のも

た。

◆一通目の尺牘と書風に大きな

隔たりがある二通目。原帖のも

つ雰囲気をよく捉え、鍛錬され

た線条は、書学の深さを感じさ

せり。表現をよく捉えている。線条の

中にあたたかい力強さを感じる。

(峰子評)

(紅瑠評)

(鄭街評)

(大雲評)

(峰子評)

特選候補者

(創作の部)

「漢字」

千葉竹浪 叙舟

もく森田 藤谷

「かな」

A I 藤村 昌子

秀恵阿部 雅悠

篤信 三浦 朱鳳

青蓮 伊藤 有津

(臨書の部)

A I 清水由紀子

玄穹 千葉 紅雪

「漢字」

蘇我 田村 鄭雲

大雲 神谷 雲卿

蒼原 香秋 香扇

大雲 宮原 珀輝

英峰 吉瀬 彩雨

「かな」

総出品点数  
67点

創作の部(43点)	漢字 - 2点
かな - 5点	かな - 3点
現代 - 19点	漢字 - 21点
篆刻 - 0点	かな - 3点
前衛 - 17点	かさを出している。原帖の素朴
書の部(24点)	チをよく観察し、骨力ある表現
漢字 - 21点	を展開。素朴な雰囲気も感じる
かな - 3点	やかな作。
かさを出している。原帖の素朴	(鄭街評)
チをよく観察し、骨力ある表現	(大雲評)
を展開。素朴な雰囲気も感じる	(峰子評)
やかな作。	(鄭街評)
(創作の部)	(創作の部)
「漢字」	「漢字」
千葉竹浪 叙舟	千葉竹浪 叙舟
もく森田 藤谷	もく森田 藤谷
「かな」	「かな」
A I 藤村 昌子	A I 藤村 昌子
秀恵阿部 雅悠	秀恵阿部 雅悠
篤信 三浦 朱鳳	篤信 三浦 朱鳳
青蓮 伊藤 有津	青蓮 伊藤 有津
(臨書の部)	(臨書の部)
A I 清水由紀子	A I 清水由紀子
玄穹 千葉 紅雪	玄穹 千葉 紅雪
「漢字」	「漢字」
蘇我 田村 鄭雲	蘇我 田村 鄭雲
大雲 神谷 雲卿	大雲 神谷 雲卿
蒼原 香秋 香扇	蒼原 香秋 香扇
大雲 宮原 珀輝	大雲 宮原 珀輝
英峰 吉瀬 彩雨	英峰 吉瀬 彩雨
「かな」	「かな」
総出品点数 67点	総出品点数 67点

漢字研究部  
(李柏尺牘稿)

選評 小浜 大明

今月のホープ作品



加藤 雅芳

空画（虚画）の筆脈が通じている為、線に伸びを感じます。又、原帖をよく理解した上で書かれた臨書です。特にそれぞれの文字がもつ、左上から右下へ流れるリズムを見事に表現しています。明快にして品を感じる秀作です。

◎漢字研究部総評

今回の古典は尺牘の草稿であることから、



紅初淑七蒼美

雲江美生風梢

桃桃白明良恵

翠光琴香子仙

惠甘城房奎黃

美雨園翠山翠

白光春菜順裕

羊有景摘一子

漢字研究部 特選 加藤 雅芳

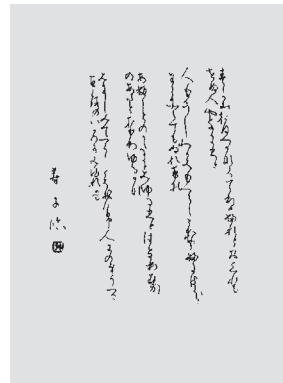
気張らず伸びやかに書かれています。又、草

書から行書への移行期の作であることから、軽快な草書のリズムを感じられます。その為今回の出品作はのびやかでリズミカルな秀作が多く、楽しく拝見させていただきました。ただし原帖が不鮮明なため、誤字も多く見受けられたのは残念でした。いつも感じますが、字典を見て原字を確認してから臨書する姿勢が肝要かと思います。

## か な 研 究 部 (針切)

選評 佐藤希雲

今月のホープ作品



伊 藤 寿 子

**かな研究部 特選 伊藤寿子**

原本をよく観察し、静かさと同時に動きを感じられる臨書です。細い線が弱くならず、転折の突き込みもしつかりしていて好感が持てます。

◎かな研究部総評

手慣れた作品が多く、努力の結果が出ていると思います。上位常連の方は、そつくりに書くだけでなく、自分なりの解釈を加えてよいと思います。

かな研究部成績表

た 誠竜大誠光玉 か 和泉雲和彩松	秀 梅鶴今礪石浅青 津澤村貝崎川木 佳 代琴貴清甘な葵 子舟泉耀雨江鄉	秀 作 (50音圖)	千玉蘭一や大上薰や大菊光電う上春青墨八水紅蘭清A 瑤葉松鼎宮ま雲泉書ま雲月影泉の泉汀峰宣戸海瑠鼎月! 須松市田鶴齋堀中坂田積新櫻高飯中宮中真市根藍城境伊 田重中川田藤切尾本玉田井田橋高村西庭岸津崎野藤 サ 香翠耶ヲ雅つ幸惠里哲雅蕙龍雅幹シジ満王ケ繁み白優和壽 舟景衣子裕え雲子美子雲子貞泉生子枝泉ミ子珠子子子	特 選 評
高 俊 佳	如京竹幸あ宗調大石長千た玉青天千 月橋美扇か苑布雲習月葉か松蓮璋葉	作 (50音圖)	汀春葵原雲中雲張大雲韻こ様く井	高 華も高 く井
會 木 勇 介	綿吉横山本茂武三松増平浜長沼中戸渡佐驚齋後紺高國草北北河加加岡榎 貫田山本吉木藤浦丸田山野谷田里村子々山藤野武峰刈村又合納藤部田 木 智佑蘭梅明絢蕙道愛佳彩永千奎星博紀和美翠良遊玄琴眞蕙春と順翠雅藤和 子子舟香香水陸子石子華豈峰心子舟子子梢香泉山城翠華舟映敬子陽芳瓊子	作 (50音圖)	汀雲春葵原雲中雲張大雲韻こ様く井	佳 会木 勇介
椿 生 入 安 新 青 相 美 代 翠 井 木 内 麗 美 代 翠 藤 玉 沙 子 賣 蓮 枝 莉	春東松硯菊こ高澄前大長前上蘭玉高高大泉有琇 汀伯村水月だ崎春橋阪月橋泉鼎松川崎陵雲会秋韻 渡山茂宮宮松増別廣平春早林橋野根丹中辻武竹高平泉鉛下小小黑菊川加葛加小大宇鶴植岩井伊伊石飯天青 邊本木澤崎川浦田府地山山部本中津羽林山内水木田林林柳地本藤 さ 美 加 自真翠草英洋玉華信美だ勝 雅紅喜春飛惠清洋花智千杏龍睦代嘉萩晃竹泰南春恵日彩昌春李紅祥芝敏京正洋恵松 子紀芳秋明子江秀子幸子美朗子霞子龍子香子源子代華宝心子江江代葉峰汀菜美夏香子華名雨園雲子子子子子月	入 選 (50音圖)	澄八彩や岩水大 春街ま沿海阪 瀬川島田澤土瀬上藤東崎泉羽木 明川 奈 原 知 風 瑞葉咏紀由美愛洋美裕光筆町雅智麗 舞喜美加純蕙江紫碧輝彩綾東典 静典茱津萩裕一輝久春楠英青津萩佳 子 風子光華子艸子香子華子子美子右華芳舟苑功夢秋艸子風子くら子蘭美子雨音子子杏代子仙希美子こ峯美子綠麗子鳳子花榮子	椿生も松白 翠大く村珠 入 安 新 青 相 美 代 翠 藤 玉 沙 子 賣 蓮 枝 莉
土 正 誠 澄 竹 書 A 光 弘 千 正 八 八 秀 た 山 硯 竹 菊 蒼 高 奥 千 蘭 N 文 汐 正 英 正 彩 長 正 東 白 梓 黎 大 青 書 澄 梅 高 東 澄 正 華 正 大 こ 坪 氣 華 和 春 原 游 I 昭 舟 葉 華 生 雲 歌 か 武 水 美 苑 月 原 阪 陽 崎 田 葉 鼎 H 筆 風 華 峰 華 月 華 向 属 江 明 阪 峰 游 春 桃 真 総 春 華 祥 華 阪 和	正誠澄竹書A光弘千正八八秀た山硯竹昌菊蒼高奥千蘭N文汐正英正彩長正東白梓黎大青書澄梅高東澄正華正大こ坪 氣華和春原游I昭舟葉華生雲歌か武水美苑月原阪陽崎田葉鼎H筆風華峰華月華向属江明阪峰游春桃真総春華祥華阪和	正 誠 澄 竹 書 A 光 弘 千 正 八 八 秀 た 山 硯 竹 菊 蒼 高 奥 千 蘭 N 文 汐 正 英 正 彩 長 正 東 白 梓 黎 大 青 書 澄 梅 高 東 澄 正 華 正 大 こ 坪 氣 華 和 春 原 游 I 昭 舟 葉 華 生 雲 歌 か 武 水 美 苑 月 原 阪 陽 崎 田 葉 鼎 H 筆 風 華 峰 華 月 華 向 属 江 明 阪 峰 游 春 桃 真 総 春 華 祥 華 阪 和	正 誠 澄 竹 書 A 光 弘 千 正 八 八 秀 た 山 硯 竹 菊 蒼 高 奥 千 蘭 N 文 汐 正 英 正 彩 長 正 東 白 梓 黎 大 青 書 澄 梅 高 東 澄 正 華 正 大 こ 坪 氣 華 和 春 原 游 I 昭 舟 葉 華 生 雲 歌 か 武 水 美 苑 月 原 阪 陽 崎 田 葉 鼎 H 筆 風 華 峰 華 月 華 向 属 江 明 阪 峰 游 春 桃 真 総 春 華 祥 華 阪 和	正 誠 澄 竹 書 A 光 弘 千 正 八 八 秀 た 山 硯 竹 菊 蒼 高 奥 千 蘭 N 文 汐 正 英 正 彩 長 正 東 白 梓 黎 大 青 書 澄 梅 高 東 澄 正 華 正 大 こ 坪 氣 華 和 春 原 游 I 昭 舟 葉 華 生 雲 歌 か 武 水 美 苑 月 原 阪 陽 崎 田 葉 鼎 H 筆 風 華 峰 華 月 華 向 属 江 明 阪 峰 游 春 桃 真 総 春 華 祥 華 阪 和